

2014年12月

東北大学環境報告書 2014 に対する評価

東北大学環境報告書評価委員会

本報告書は、環境にかかわる東北大学の多岐にわたる活動内容を体系的かつ網羅的に記述した優れた報告書である。データが適正に開示されて評価分析がなされており、事業所の報告義務を十分に果たしている。2014年版は、全体としてなおいっそう見やすく仕上げられており、総論と各論のバランスもよく、2013年版に対する本評価委員会の評価意見が十分に反映された結果、格段に読みやすいものとなった。震災で損壊した研究棟の竣工など復興が進む状況のもと、より精緻なデータの入手・分析を行い、本報告書をまとめられた環境報告書作成専門部会（2014年度）のご努力に深く敬意を表する。今後、本報告書がさらに充実し、東北大学の環境マネジメントにさらに有効に活用されることを期待し、本委員会が出された主な意見を以下に列挙するので、参考にしていただければ幸いである。

- 1) 環境報告書の想定する読者が一般市民なのか、学内の教職員・学生なのかがわかりづらく、内容の量や質について中途半端な印象を受ける。もし本書の目的が一般市民を対象とするならば、CO₂ 排出係数やスラッジ等の用語についてわかりやすい言葉で記載するか注釈をなおいっそう充実すべきであり、数値データについては視覚に訴えやすい図表を充実させて記述すべきである。
- 2) 各種分析データは充実してきたが、その一方で、数値の変動要因に関する分析について、変動の背景にある情報の調査や分析が不足している部分が散見される(例えば排水自主検査基準超過の大幅増加など)。今後の変動を予測し、環境負荷の低減を目指すのであれば、より詳細な分析を行い、原因について考察することが期待される。また、必要があればデータを部局ごともしくは学科ごとにまとめることにより、それぞれの環境意識の向上につなげてほしい。
- 3) 直近の数年で予想される東北大学を取り巻く環境の変化として、雨宮キャンパスの新青葉山キャンパスへの移転や地下鉄東西線開通があり、これにより片平・青葉山地区の通学・通勤環境の劇的な変化が予想される。これらの変化が大学の環境にどのような影響を及ぼすのかを分析し、例えば省エネルギーへの貢献度等を数値化して教職員・学生への日々の環境活動への啓発を促すとともに、大学運営に対する一般市民の理解を助けることも、本書の役割であると考えられる。
- 4) 環境トピックス欄は学生の環境活動についての記載が充実し、学内での環境活動への取り組みの透明性が向上している。一方で、環境科学研究科以外の取り組みについても紹介するなどにより、他部局における環境意識の高まりを期待したい。